

がん診療 あさひ

16号

2025年3月
発行

～がんと診断されたり、治療を受けるときに、役立つ情報をまとめました～



アピアランスケアのご紹介

“アピアランス (appearance)”とは「外見」を示し、がん治療による外見の変化を伴う患者さんの辛さを少しでも軽くし、ひいてはその患者さんらしさを保てるよう関わる医療ケアを“アピアランスケア”と呼びます。

当院では外来で化学療法を行う化学療法センターで外見に悩まれる患者さんのお話を聞き、対処方法を一緒に考えるお部屋を用意しています。主にはウィッグの紹介や試着を行っています。

年間に利用患者数は40件前後で、外来通院患者さん、入院中の患者さん、また他施設での治療中の方にも対応しております。化学療法センターに時間の予約をしてからおいで下さいますようお願い申し上げます。

化学療法センター

当院は、「地域がん診療連携拠点病院」「がんゲノム医療連携病院」に指定されています。



地方独立行政法人

総合病院 国保旭中央病院

〒289-2511 千葉県旭市イの1326 TEL.0479-63-8111 (代) FAX.0479-63-8580

www.hospital.asahi.chiba.jp

わたしたち歯科衛生士は 口腔ケアでがん治療を サポートしています



その2

がんで「化学療法」を受ける方へ

化学療法に伴う口腔トラブルの代表的なものとしてあげられるのが口内炎です。その発生の頻度は約40%といわれています。

口内炎の発生を抑えるための、口腔ケアのポイントをご紹介します。

▶ 口の中を清潔にしましょう。

歯磨きや入れ歯の手入れを十分に行ってください、歯ブラシは軟らかめのものを使用しましょう。

また、歯科を受診し治療やクリーニングをして、口の中の状態を良くしておくことも大切です。

▶ 口の中の保湿をしましょう。

1日4回（朝・昼・夕・寝る前）、ぶくぶくうがいをしましょう。

口の中が渴いていると粘膜が傷つきやすくなります、市販の保湿剤を使用して口の中のうるおいを保ちましょう。

※病院の売店でスプレータイプ、ジェルタイプなどの保湿剤を販売しています。

▶ もし口内炎になってしまったら・・・

症状にあわせてうがい薬、軟膏の処方や口腔ケアが必要になりますので担当医に相談し歯口科受診の依頼をしてもらってください。

歯科衛生士 飯島由希子

読者アンケートへ ご協力ください

より良い紙面づくりのため、皆様のご意見・ご感想をお聞かせください。

右記QRコードからご回答ください。



がん患者さんの 症状に合わせた 食事のポイント

管理栄養士に聞きました



その2

味覚異常の時

【症状と対処法】

味を感じない、うすく感じる

- だしの旨味や油脂のコクを効かせた、カレーやソースなどでアクセントをつけます。
- 調味料を別に添えて、一口ごとに味を足す方法もあります。
- 人肌程度の温度の方が味を感じやすい場合があります。



苦味や金属味を感じる

- 汁物を添えると食べ物が汁に包まれて舌の上を通過するため不快な味を感じにくくなります。
- 出汁のきいた薄味がおすすめです。低塩分の汁物は苦味や金属味を感じにくくなります。



なんでも甘く感じる

- 砂糖やみりんなど、甘味調味料の使用を控えましょう。
- お酢、レモンなど酸味を利用してみましょう。



★人によって症状は異なるため、いろいろな味付けを試して自分に合う味を探してみましょう。

《プラスα》

- 口腔内の状態も食欲に影響します。唾液の分泌低下による口腔内の乾燥で味覚異常が起こることもあり、こまめに、うがいや水分補給を行い口腔内をきれいに保つことも大切です。
- 食事中は汁物などで水分を補いながら、よく噛んで唾液の分泌を促しましょう。
- 口内炎がある場合には、刺激物や熱い物、塩味・酸味・辛味の強いものは避ける他、冷たい料理を先に食べることで痛みが低減する場合もあります。

管理栄養士 鈴木澄花

「がん患者サロン」のご案内

がん体験者・がん治療中の患者さん及びご家族を対象に、2号館1階の医療連携福祉相談室で毎月開催しております。自身の体験や思いを語り合う場として是非、ご活用ください。参加いただいた方からは、「皆さんと話しをしたら気が楽になった」などの感想をいただいております。参加申し込みは不要で、出入りも自由ですので、お気軽にご参加ください。詳細は、病院内掲示ポスターもしくは病院ホームページをご覧ください。



がん相談支援センター

「がん」について、お気軽にご相談ください

「がん診療連携拠点病院」には「がん相談支援センター」が設置されています。

当院では、社会福祉士・看護師が相談に応じます。必要に応じて、医師・薬剤師・管理栄養士等と連携して、お話を伺います。

〈相談例〉

- がんと言われて頭が真っ白になってしまい、誰かに話を聞いてほしい。
- どのように治療に取りんだらよいでしょうか？
- がんの治療ってどのくらいお金がかかりますか？
- 仕事を続けるのは無理でしょうか？
- 介護が必要になったらどうしますか？
- 緩和ケアについて知りたい。

など



セカンドオピニオンについては、「紹介患者センター」で相談に応じることができます。(医療機関検索・相談方法・費用・予約について)

がん相談支援センター

案内図

2号館1階 医療連携福祉相談室

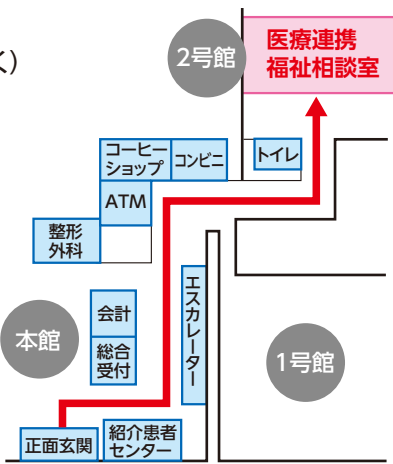
時間／月～金（祝日・年末年始を除く）
8:30～17:15

連絡先／0479-63-8111 (代)
内線2150・2151

相談は無料です。

※なるべく予約していただくことをお勧めしています。

※当センターで医師と直接お話をすることはできません。社会福祉士・看護師がお話を伺い、医師にご相談内容をお繋ぎすることは可能です。



ハローワーク出張相談

ハローワークスタッフが当院で個別に就職のサポートをします。治療のために仕事を辞め、就職を希望されている方や、仕事の継続を希望の方、治療のため就職準備が難しい方などぜひご相談ください。

日にち：毎月第2水曜日

時間：10:30～14:30の間で3人まで(事前要予約制)

場所：医療連携福祉相談室 費用：無料

申込み：前日の15:00までに医療連携福祉相談室で直接申し込むか、お電話でお申し込みください。

アピアランスケアについて



① がん対策推進基本計画でも重要視されています

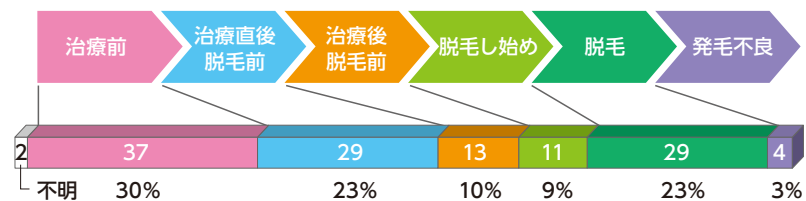
厚生労働省HPにも載っています通り、がん患者さんへの社会的な問題への対策の中に“治療に伴い外見変化に対する医療現場のサポート”が挙がっています。その施策として拠点病院等を中心としたアピアランスケアに係る相談支援・情報提供体制の構築が重要であると述べられています。

② ウィッグについての相談者の来室時期

脱毛に相談に来られた方の脱毛時期は患者さんそれぞれです。「まだ購入は決めていないが、どういうものか見てみたい」という方でも対応致します。

脱毛相談者の脱毛時期

(2013年3月～2018年3月) n=125

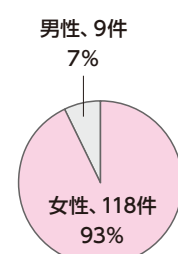


③ ウィッグ相談者の男女比と年齢層

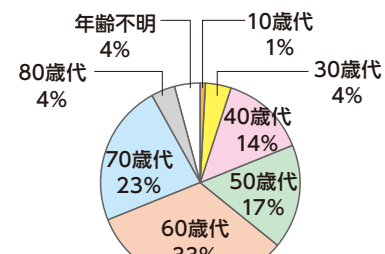
女性患者さんが大半を占めますが、男性患者さんの相談も受け付けておりますので、ご相談下さい。

相談者の男女比と年齢層

(2013年4月～2018年3月) n=127



男女比



年代

脱毛関連125件
爪障害1件
浮腫1件

④ 実際の相談事例

→「治療を勧められたがどうしても自分の髪がなくなるイメージができない!」

ウィッグの紹介を求めてお見えになりましたが、まず治療やその副作用を受け止められていませんでしたので、じっくりお話を伺い、診療科との連携を取り治療方針を再度医師と検討することになりました。

→「自分は明るい性格で知り合いが多い。皆がウィッグについて聞いてきたら明るい自分を保てる自信がない」

自分の本心を中々周囲の方に吐露できていなかったのが、今後どのように気持ちの持ちようを図っていくかを見出していきました。

→「近隣住民にウィッグを付けていると噂されるので、できるだけ脱毛前と変わらないウィッグを購入したい」

購入予算の中で様々なウィッグのパフレットから一緒に検討しました。

⑤ ウィッグ購入までの流れ

①化学療法センターで相談

②ウィッグが必要な状況を確認し、ウィッグ以外の選択があるかを確認

③各会社のウィッグの手触りや裏地の確認

④会社を決定し、実店舗に行くか、会社側に来てもらうか決める

⑤作成（当院内の理髪室でも扱っております）

化学療法センターとしては医療者としての知識を活かしつつ、患者さんの悩みを共有し一緒に外見の変化に対応していけるお手伝いをしていきたいと思っています。
お気軽にご予約下さい。



化学療法センター 看護師 金芳佳子

当院の治療や医療のご紹介

多面的な治療で、患者さんを支えます

手術療法について

手術療法とは、がんを切り取って治す治療法です。がんを完全に治すための治療法として、ほとんどの場合手術療法が選択されます。

手術はからだに負担のかかる治療法ですので、これなるべく軽くするためにいろいろな手術が開発されています。胃カメラなどの内視鏡による手術では、皮膚にメスを入れることなくがんを切除できます。また、腹腔鏡や胸腔鏡による手術では、従来の開腹や開胸による手術に比べてずっと小さな傷でがんを切除することができます。

現代の手術療法は、チーム医療として行われます。たとえば、手術に加えて抗がん剤や放射線を併用する場合は、外科・内科・放射線科が一緒に治療にあたります。また、術前の準備段階から術後の回復期まで、外科医・麻酔医・看護師・薬剤師・理学療法士など多くの職種の人たちがチームとして診療に加わり、患者さんが安全に手術療法を受けられるような体制が作られています。

外科 永井

緩和ケアについて

緩和ケアとはがんに伴う身体や気持ちの問題について、病気の治療だけでなく社会生活なども含めて全人的に患者さんを支える医療のあり方です。

世界保健機構（WHO）では、緩和ケアはがんと診断された早い時期からがん治療と平行して行われるべきものと言われています。

患者さんが自分らしい生活を保つことができるよう、医師・看護師のほか薬剤師・医療ソーシャルワーカー・理学療法士・管理栄養士・臨床心理士が協力し、患者さんご家族に様々な支援を行います。

緩和ケアセンター 崎元

放射線治療について

X線や放射性物質が出すビームを利用して、手の届かないところに治療ができるという特徴があります。各診療科、画像診断部門と協力して問題を見つけ、解決を目指しています。

●外照射

- 一般的な外照射（ほぼ全身が対象、根治・緩和）
- 高精度治療 IMRT 強度変調放射線治療（前立腺癌、頭頸部、子宮癌術後など）、定位放射線治療（脳腫瘍、肺癌、肝臓癌など）

●腔内照射（婦人科腫瘍）

●内用療法 ソーフィゴ注（前立腺癌骨転移）、ルタテラ注（神経内分泌腫瘍）、放射線ヨード（甲状腺癌術後アブレーション）

放射線科（治療部門） 太田

化学療法センターでの治療について

「手術」「放射線治療」と並んで、がん治療の3本柱のひとつに「化学療法」があります。近年、新しい抗がん剤の開発や副作用を軽減する支持療法の進歩などにより、治療効果が向上し、標準化された化学療法が適用されるようになりました。このように有効な化学療法を多くの患者さんが受けるようになり、生活の質（QOL）が重視されるようになったことから化学療法は外来治療が中心となり、安全で質の高い医療の提供の場として化学療法センターが設立され全科の治療がここに集約されています。化学療法センターの病床数は40床（リクライニング8、ベッド32）あり、スタッフはがん化学療法看護認定看護師1名を含む看護師7名と医師1名が常駐しています。1人の患者さんを包括的に支えていく上での治療やサポートの質を高めるために医師、看護師、薬剤師、栄養士、歯科衛生士、リハビリ療法士によるチーム診療を行ない、すべての患者さんに満足していただけるよう心がけています。

化学療法科 中村